

令和7年度 静岡済生会看護専門学校評価書

4：達成 3：概ね達成 2：達成には不十分 1：達成していない

<p>I 学校運営</p>	<p>自己評価：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の業務目標を設定して業務を遂行しているが、人材不足が業務の負担を大きくしている。教育力の維持のためには、教員の確保は大きな課題である。現在は協力的体制がとれる職場風土に支えられているが、教員の確保と共に業務遂行状況の検討も必要である。 ・教員確保の対策として、教員のインターンシップの実施、専任教員になるための研修枠の拡大に取り組んだ。今後も病院と連携を図り、人材確保に努める。また、今年度は教務主任研修に1名参加させており、新たな組織づくりを視野に入れ、学校運営に対する知見を広げることができた。 	<p>学校関係者評価：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織目標を掲げて教員が組織力を持って取り組んでいる。 ・2名参加を得た教員インターンシップの導入や専任教員養成研修受講枠の拡大など人材確保という課題に組織的に取り組んでいる。 ・教務主任研修への参加も教育の質の確保を意識して行われている。
<p>II 教育理念 ・教育目標 ・教育課程 ・教育活動</p>	<p>自己評価：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム運用会議を継続してきた中で、新カリキュラムで対応した卒業生の学びから見えてきた課題を受け、教育課程を見直し、令和8年度施行として変更申請の承認を得た。引き続き学生の学びと教育内容を評価していく。 ・今年度は養成施設指導調査があり、定員超過に対する文書指摘と講義要綱・出講簿に関する口頭指導を受けた。他は学習環境・書類等、整理されていると評価された。今後も引き続き指定規則に則り、本校の強みを活かした学校運営に向けて努力していく。 ・臨地実習は、施設・実習指導者と連携をとり、必要時早期に改善を図っている。今年度は、技術演習に実習指導者の協力を得て、臨地実習に繋げる取り組みをした。 ・学生支援ソフトやタブレットの活用に対しては、学生の活用状況を共通認識した上で、学校としてのルールを常に明確にしている。 ・休学者に対しては、休学要因となった課題を認識し、学生の学習意欲に繋がるよう教員間の情報交換を密にして関わっていく。 ・授業研究は少人数制で取り組むことにより、意見交換がされやすく改善された。 	<p>学校関係者評価：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムを評価し教育課程の変更申請に繋がったことは評価できる。卒業生の学びから見えてきた課題を明文化することで継続的な評価を可能とし教育効果が得られる。 ・外部機関の指導調査を経て学校の強みを生かした学校運営に取り組んでいる。済生の精神を更に育んでほしい。 ・教員と実習指導者との連携は深く、学生が学びやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる。技術演習を病院の実習指導者と一緒に行うことにより、学生も実習に行きやすくなりその部署への就職意欲に繋がる。
<p>III 就職・卒業</p>	<p>自己評価：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の全員合格を継続できており、卒業時の教育水準は維持できている。しかし、年々学習の定着に困難性が増しており、個別対応の必要度も増し、教員の負担が大きい。外部講師の協力も得て、授業と国家試験対策を関連づけている。国家試験の合格を目指す事と共に専門職業人としての成長も意識していく。 ・各学年、定期面接を実施し、学習状況の確認や進路の相談を受けている。気になる学生に対しては、早めに家庭へ連絡をして協力を得ている。また、就職については、業者を活用し様々な病院を知る機会を設け、自ら希望病院を選択できるように促している。 ・母体病院の就職率が高い事で、卒業生の就業状況が把握できる機会にもなっている。ホームカミングディは、卒業生1/3の参加であり、就業意欲に繋げることができている。 	<p>学校関係者評価：4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験の合格率100%を継続しており看護学校の役割を遂行できている。学生と教職員の目標が明確であり、組織力の強化に繋がった結果と言える。 ・学生アンケートから3年次生の自覚と覚悟が見える。今後も学生の知識の定着力アップや専門職業人としての社会人力アップの強化に努めてほしい。 ・ホームカミングディはより多くの卒業生の参加に向けて、日程や時間、方法などを工夫してほしい。
<p>IV 学生生活支援</p>	<p>自己評価：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料の滞納者が昨年度から数名いるが、家庭の状況に応じて納入を促している。また、給付金・奨学金に関しては、学生に情報提供をするともに速やかな手続きに努めている。 ・スクールカウンセリングの実施者が年間1名であったが、ストレスチェックの実施やカウンセラー通信の発行は、各自の心理状況の把握と対応に活用されている。学生からの相談事に対して、教員は速やかに対応し解決の糸口を学生自らが見出せるよう支援している。学生への丁寧な関わり方と共に、学生との距離の取り方も意識していく。 ・ワクチン接種の推奨、健康診断の結果を活用して学生の健康管理を促している。 	<p>学校関係者評価：4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学業継続支援体制は、学生の主体性を尊重し個別にあらゆる側面から対応している。一方SNSの誤った使用方法や学校生活の中での学生間の関係性など、組織的に継続して支援していただきたい。 ・スクールカウンセリングについては、Zoom等ビデオ通話ができる環境を整えるなど工夫し相談しやすい体制を整えてほしい。

<p>V 経営・管理・財政</p>	<p>自己評価 : 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた財源を基に計画的に学習環境の整備を進めている。 ・コンプライアンス研修、防災・防犯訓練は定期的実施し、意識を高めている。 ・学生による学校運営評価を実施しており、意見については丁寧に説明をしている。老朽化した施設・備品の改善に対する要望については、改善可能な箇所から早急に着手していく。 	<p>学校関係者評価 : 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有事の際は迅速な情報共有、責任と意思決定系統の明確化、危機管理マニュアルに基づいた緊急対応が必要である。訓練を実施し、意識の高揚に努めている。 ・教職員の研修確保やワークライフバランスの調整など教員に関する評価項目を追加するとよい。
<p>VI 教育環境</p>	<p>自己評価 : 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の経年劣化は、学生募集や教育への影響が懸念される。明確な将来構想は決定していないが、暫くは病院にとって本校の存続意義は大きいとの結論は出ている。学習環境を整えるため、校舎内の修繕を可能な範囲で早急に決めていく予定である。 ・図書室が年々整備され、長年の課題であったレファレンスサービスも開始した。授業と連携も図り、図書利用の促進を具体化すると共に校外の資料検索を促した。また、発刊が古い書籍については新しい書籍への入れ替えを進めていく。 	<p>学校関係者評価 : 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化による修繕等については予算を確保し優先順位を見極めて計画的に着手するよう進めている。 ・図書室は、学生の知識と主体性を育む学習環境であり、自主学習を通じて学ぶ楽しさを与える機会になる。レファレンスサービスや新刊の導入など更なる整備を期待する。
<p>VII 広報・地域との連携</p>	<p>自己評価 : 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学生41名の確保はできたが、受験生の減少が進み、定員と質の確保の困難さが年々増している。それらの状況を受けて、一般入学試験の日程と推薦基準を変更した。 ・Instagramの掲載が定着し、日々の学校生活の発信が継続できている。 ・ボランティア活動に関心を持つ学生も多く、済生会関連の施設イベントの協力参加をしている。また、看護協会等の関連団体の連携・協力も図っている。 	<p>学校関係者評価 : 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問や説明会への参加、入学試験の日程等の変更などにより入学生を確保できた。学生ボランティアやSNSの活用により学校の魅力を十分発信できたことも影響している。 ・Instagramでは学生の様子が好感を持って視聴できるため広報効果が期待できるが、学生の個人情報には十分注意されたい。Instagramをどう活用したか入学時にアンケート等をとれば評価がしやすい。

総 評

・自己評価や学校関係者評価を経年的、組織的に継続することで、看護教育の質の確保はできていると高く評価できる。教職員が看護学校の発展を願い、日々努力を重ねた結果が継続的な国家試験の合格率100%に、そして就職後の質の高い看護活動に反映されていると考える。一方、今後の将来構想を組織的に熟考する機会を確保すると学校の強みの強化に繋がると推察する。今後も済生会精神を強みに、学生ばかりではなく、より年齢の若い子どもたちから看護師まで多くの皆さんに向けて、学校の魅力を今以上に発信していただきたい。看護や看護教育のすばらしさから人が集まる学校組織に更に発展されることを期待する。

学校関係者評価委員

委員長：鈴木賀奈子 元東海アクシス看護専門学校 副校長 (教育に関し知見を有する者)

委員：平野 一美 公益社団法人静岡県看護協会 常務理事 (関連業界等関係者)

委員：小早川裕生 中之郷クリニック 看護師 (卒業生)

委員：府川 憲子 静岡済生会総合病院 副看護部長 (その他校長が必要と認める者)